



ごあいさつ

神奈川県生活協同組合連合会

会長理事 木下 長義

新しい年を迎えました。

これまで生活協同組合の運動の発展を支えていただいた行政や議会の皆さまをはじめ、諸団体そして協同組合関係の仲間の皆さまに深く御礼を申し上げます。

東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所の事故から22か月目になろうとしています。復興計画はなかなか定まらず復旧も瓦礫処理や除染も進んではいません。特に県内外への16万人に及ぶと言われる避難者の方は、いつ故郷に戻れるのか、生きて再び戻ることができるのかとの思いでおります。しかし発生直後こそ大きな関心を持って被災地・被災者に寄せてきた関心も、今や徐々に薄れがちになってはいないでしょうか。復旧・復興には長い時間が必要であり、それに対応する長期の支援が必要です。神奈川の生協は今後も息ながく継続して取り組んでまいります。

昨年は国連が2009年12月の総会で宣言した、国際協同組合年（International Year of Cooperatives = IYC）で、そのスローガンは「協同組合がよりよい社会を築きます」（Co-operative enterprises build a better world）でした。この神奈川県においては、30団体の結集により2012国際協同組合年神奈川県実行委員会が作られ、多くの出会いと感動を作りながら多彩に協同の輪が広がってまいりました。

また私たちは国際協同組合年の取組みの経験を通じて、多くの皆さまとつながりながら、くらしの安全・安心や住みよい地域社会づくりへの積極的な参加と、生協の使命を全う出来るより強固な活動と事業を築いていく決意を新たに致しました。

昨年10月30日～11月1日には国際協同組合同盟（ICA）臨時総会がイギリス・マンチェスターで開催され「協同組合の10カ年計画」が採択されました。この計画は、2020年までに協同組合を「経済、社会、環境の持続可能性における定評あるリーダー」「人々に最も好まれるモデル」「最も急速に成長する事業形態」とすることを「2020年の挑戦」として掲げており、今後更にICA会員の意見を取り入れて2013年に完成の予定としています。

一見困難に見えるようなことであっても正面から向かい合い、自らの力量を高めながら協同の力でくらしの中に安心を取り戻していくことこそが助け合いの組織＝生協の使命であると認識するものです。

詩人である相田みつをの作品に「うばい合えば足らぬ／わけ合えば あまる」と、特に東日本大震災以降多くの人々の共感を呼んだ作品があります。幸福も奪い合うものではなく、わけ合えば増えます。一人ひとりの心と力をつなぎ紡いでいく命を大切にする社会に向けて、「一人は万人のために、万人は一人のために」という協同の精神を大切にして地域社会からの信頼にお応えできるように、より一層の努力をしておりますのでよろしくごお願い申し上げます。